

主な質疑応答

中期経営計画(2022 - 2024)の進捗 取り組み状況について

- Q DX BIM/CIM ICT について、図面のデジタル化等によって生産性が向上する一方、担い手不足の影響もあり、業界全体として施工段階でのトラブルも散見される。施工段階の技術を担保するためにどのような対策を講じているか。
- A 生産性向上に寄与する技術にはここ数年力を入れて取り組んでいるところだが、同時に、技術者の人員構成に偏りがあるため、技術の伝承が課題となっている。対応として、若手社員の早期育成及び、シニアの方々の活用による現場力の向上に力を入れている。地道な努力となるが、今後5年程度で技術の伝承もある程度進み、施工における技術力の維持は可能と考えている。
- Q 国内大型建築工事や今般のトップ人事について、外部からは状況がよく見えないが、一体何が起きているのか、社内体制や経営体制に問題はないのか、今どのようなことに気をつけて取り組まれているのか伺いたい。
- A トップ人事についてお騒がせしたことについては事実だが、正式な手続きを経て、人事は確定している。様々なステークホルダーからのご意見をいただいたうえで、経営体制を刷新すべく、半数以上の取締役の交代を決めた。当社の最大の課題は国内大型建築工事を一刻も早く終わらせること。工事は順調に進捗しており、まだ予断は許さないもののリスクは低下してきている。新たな経営体制と建築工事の状況については、私自身が全国支店を訪問し、可能な限り説明するとともに、いまこそ会社が一丸となり対応していこうという強いメッセージを伝えており、社内では一定の理解は得られていると考えている。
- Q 国内建築工事について、今期の利益率は4.2%ということだが、今後はどうなるか、建築事業について今後の見通しを伺いたい。
- A 建築の利益率については、過去に受注した物価上昇などの影響を受けた低採算の工事の影響がしばらく残ることから、採算を確保した新規工事への入れ替えは進んではいるものの、利益回復にはもう少し時間がかかる見通し。このラインを最低ラインとし、更なる採算改善を図る所存。

以 上